キッズだより

令和5年2月　第11号
たかとりちどりキッズ

♪にぎり　ぱっちり　たてよこ　ひよこ　　ぴよ ぴよ ぴよ ♪

このわらべうたも、以前紹介したシフォン布を使用します。手の中に布を丸めて入れ、布が見えないようにします。「にぎり ぱっちり たてよこ ひよこ」で、両手を左右に振ります。最後の「ぴよぴよぴよ」で、手の中の布を一気に出すイメージで、両手を左右に開く。すると、子どもは「うわーでてきた」と喜んでいます。ひよこの部分を様々な動物に変えて、鳴き声を真似て楽しんでいます。

気温の変動が大きく体調を整えにくい季節です。節分の会では、そんな季節の変わり目に起こりがちな病気や災害を鬼に見立て、豆をまいて追い払います。「鬼は外！　福は内！」と邪気を追い払い、みんなが健康で幸せに過ごせますようにと願います。

北坂　美知子

≪大人になって読む「ちいさいモモちゃん」≫

私の数少ない趣味の一つが読書で、絵本も大好きです。保育園にはたくさん絵本がありますね。絵本は月齢に合わせ、子どもの興味や関心を引き出せるように考えられていることに感心します。

さて、私が子どもの頃に好きだった本（絵本というよりは児童書ですが）が「ちいさいモモちゃん」シリーズでした。松谷みよ子さん著で、松谷さんの娘さんがモデルの、モモちゃんの成長と暮らしを描いたファンタジー作品です。その中に、「ある時からパパが靴だけ帰って来るようになる」という話がありました。姿が見えず、不思議がりながらも食事を用意して待つママ…。他にできることがないのでその靴をピカピカに磨き上げ、靴の上にポロポロと落ちる涙。当時小学生の私には、不思議でちょっと不気味で、哀しい感じがする、けれど心に残る場面でした。後年、大学の児童文学の講義で、これは著者の離婚を描いているのだと知りました。大人になってもう一度絵本を読み返すと、そういう意味があったこと、違った見方や隠されたメッセージに気付くことがあり、深くて面白いと思うようになりました。この「ちいさいモモちゃん」シリーズは後半になるにつれ、母子家庭への周囲の目や子どもを預けて働く母と子どもの心。パパとの交流そして永遠の別れなどにも触れられていきます。あくまでファンタジー作品なので、託児所が森のくまさんの家だったり、面会交流が「オオカミのパパのお客さん」だったり、楽しいほのぼのとした雰囲気で語られます。

今、結婚して妻となり母となった私が読み、共感と、鋭く刺さる部分があります。皆さんにも子どもたちにも一度読んで欲しい作品です。本の表紙が人形を使った実写風の写真で、とても可愛くて、子どもの頃はこれも大好きでした。ここもぜひ見て欲しいところです。

福井　真視子

２　月　の　予　定

節分の会	３日（金）	避難訓練	７日（火）
誕生会	８日（水）	体育あそび	９日（木）
救急訓練	２２日（水）	発育測定	２４日（金）
制服販売（２歳児クラス）	２８日（火）		

あさひぐみ

鈴やマラカス、手作りの太鼓などを使い楽器遊びを楽しみました。太鼓に自分で描いた絵を貼ったことで、それを指差し興味津々でした。太鼓を鳴らすと嬉しそうに真似をして叩いていました。また、好きな楽器を選び、ピアノに合わせて、ミニ合奏も楽しみました。大好きな「おもちゃのチャチャチャ」を弾くと、「ちゃちゃちゃ」と歌いながら楽器を鳴らし喜んでいます。引き続き楽器遊びを楽しめるようにしていきます

食事の時間が大好きな子どもたち。初めは手づかみ食べが多かったのですが、最近はスプーンに興味をもち始め、持って食べようとしています。持ち方やすくい方を丁寧に伝えながら、スプーンで食べられるよう援助していきます。

たいこに絵を描いたよ

おおきなたいこど～んどん♪

おもちゃのチャチャチャ♪

今月のねらい：スプーンを使い自分で食べることを喜ぶ

ひかりぐみ

保育士や友だちと一緒に様々なふれあい遊びを楽しみました。「いとぐるま」という触れあい遊びでは、初めは不思議そうにしていた子どもたち。「くるくるまわるよ」と声をかけると、「くるくる」と言いながら回ったりジャンプしたりして楽しみ始めました。「ちびすけどっこい」と四股をふむ真似をすると、子どもたちは膝に手をあてて足をあげようとします。「はっけよーい　のこった」と相撲をとって遊び始めると、「もういっかい」と何回も四股をふみ、嬉しそうにしていました。引き続き、様々なふれあい遊びを楽しんでいきたいと思います。

にじぐみの友だちが上手に衣服を着る姿を見て、「〇〇ちゃんもする」と言い、憧れをもっているようです。自分でしたい思いを受け止めながら、見守ったり、さりげなく手伝ったりし、自分で着脱できるように援助していきたいと思います。

小さくなって

大きくなって

くるくる

今月のねらい：保育士と一緒に、着脱しようとする

にじぐみ

脱いだ衣服を自分で畳めるよう、仕方を知らせながら一緒に畳むようにしています。「こう？」「ここをもつの？」と保育士に聞きながら、意欲的に取り組んでいます。慣れてくると、「きょうはじぶんでたたみたい」と言って、最初から最後まで自分でするようになりました。畳めた時の満足感や嬉しさを味わえるよう、引き続き認めたり一緒に喜んだりしていきます。

「むっくりくまさん」や「イス取りゲーム」など、簡単なルールのある遊びを取り入れながら友だちと楽しめるようにします。

じぶんでたためるの！

こうかな？

今月のねらい：簡単なルールのある遊びを楽しむ